

麻しん及び風しんの予防接種を受けましょう

第1期

対象者：1歳児 ※沖縄市に住民登録をしている方
対象期間：2歳の誕生日前日まで
接種回数：1回

麻しん・風しんの感染
予防にはMR7ワクチン
の2回接種がとても有
効です。



第2期

(対象者の生年月日・対象期間は令和3年度のもので)

対象者：小学校入学前の1年間にある児 ※沖縄市に住民登録をしている方
(平成27年4月2日～平成28年4月1日生まれの児)
対象期間：令和3年4月1日～令和4年3月31日まで
接種回数：1回

☆麻しん(はしか)について

麻しん(はしか)は、麻しんウイルスの空気感染・飛沫感染・接触感染によって発症します。感染力が非常に強いうえに症状も重く、合併症をおこしたり、重症化により死亡することもあります。

また、麻しんにかかってから、数年～10数年経過した後に、亜急性硬化性全脳炎(SSPE)という重い脳炎を発症することがあります。

(麻しんの主な症状)

高熱、せき、鼻水、めやに、倦怠感、発疹(しばらく色素沈着を残すことがあります)。
※気管支炎、肺炎、中耳炎、脳炎などの重い合併症を併発することもあります。

☆風しん(三日はしか)について

風しんは、風しんウイルスの飛沫感染によって発症します。症状は比較的軽く、はっきりしない場合もあります。予後は一般的に良好ですが、合併症をおこすこともあり、軽視できない病気です。大人になってからかかると、より重症化する傾向が見られます。

また、妊婦(特に妊娠初期)が風しんにかかると、胎児に感染し、難聴や先天性心疾患、白内障、網膜症などがおこる可能性があります。(先天性風しん症候群)

(風しんの主な症状)

発熱、発疹、耳の後ろや首などのリンパ節のはれ
※合併症として関節炎、血小板減少性紫斑病、溶血性貧血、脳炎などが報告されています。

平成30年に沖縄で麻しんが流行した際、感染した方の多くは予防接種歴がない方でした。麻しんは免疫を持っていない方が感染すると、ほぼ100%発症するといわれ、予防接種がもっとも効果的な予防法といわれています。

予防接種を受けることで、受けた本人だけでなく予防接種をうけることができない人(0歳児や妊婦など)への感染も防ぐことができます。

○MR7ワクチンの副反応について

主な副反応は、発熱、発疹、鼻水、せき、食欲低下、不機嫌、だるさ、接種部位の局所反応(発赤、はれ、しこり、痛み)などが報告されています。

また、被接種者のうち0.1～10%程度に麻しん様発疹があらわれることがあります。

まれに報告される重い副反応として、ショック、アナフィラキシー、血小板減少性紫斑病、急性散在性脳脊髄炎(ADEM)、脳炎・脳症、けいれんなどがあります。

○予防接種による健康被害救済制度について

定期の予防接種後に起きた健康被害が、予防接種によるものと国で認定された場合には、予防接種法に基づく補償(医療費、医療手当、障害児養育年金、障害年金、死亡一時金、葬祭料)などを受けることができます。

沖縄市役所 こども相談・健康課 予防係 TEL 939-1212(内線 2232・2233)

※この説明書の情報は令和3年3月現在のものです。